

# 各地区業況アンケート結果（29年11月調査分）

（29年11月24日）

全国鉄鋼販売業連合会

11月23日締切で、当会役員151名に対しこのアンケートを行ったところ73名の回答があり（回答率48.3%）その結果が下記のとおりまとめましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※  $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、（数は回答実数）

## 1. 前年同月比数量増は5割弱

問1】貴社の10月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	17	19	30	5	2	73	76
比率	23%	26%	41%	7%	3%	DI+60	DI+41
売上金額/前年同月比	25	26	17	3	2	73	76
比率	34%	36%	23%	4%	3%	DI+95	DI+71

## 2. 黒字企業8割強に

問2】貴社の10月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	25	36	7	3	2	73	75
比率	34%	49%	10%	4%	3%	DI+108	DI+93

## 3. 前月に続き需要は堅調に推移

問3】貴社の営業窓口から見て11月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		15	32	7	2	56	+7	+31
民間建設向	4	22	28	9		63	+33	+56
自動車向		12	24	3		39	+23	+46
その他需要家向	3	21	33	6		63	+33	+45
仲間取引	2	13	34	8	1	58	+12	+25
計	9	83	151	33	3	279	+22	+40
比率	3%	30%	54%	12%	1%			

## 4. 冬場もそれほど落ち込まず

問4】貴社における向う12月から2月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	7	27	24	8	3	69	77
比率	10%	39%	35%	12%	4%	DI +39	DI +68

## 5. 薄板類が不足ぎみで品薄感漂う

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	品種別	A	B	C	D	E		11月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-38	-28	-19	-26	-21	-28	-17	-31	-24	-29	-20	-19	鉄筋用丸鋼		1	23	4		28	-11
-17	-11	-5	-3	-11	-7	-8	-14	-3	-13	-13	-13	構造用丸鋼		2	25	4		31	-6
-8	-7	-5	-3	-7	-7	-7	-11	-12	-9	-5	-9	平角鋼		1	31	2		34	-3
26	58	38	26	21	7	4	-18	0	0	15	22	H形鋼	1	8	21	1		31	29
0	18	0	-23	-4	0	-5	-16	-26	-13	0	21	コラム		7	15			22	32
7	6	2	-6	-3	-3	-7	-10	-16	-13	0	-8	小形山形鋼		1	32	3		36	-6
7	11	7	-6	-12	-6	-10	-26	-19	-16	-5	-5	中形山形鋼		2	31	4		37	-5
3	15	10	3	-12	-9	-10	-24	-22	-5	3	-3	溝形鋼		3	29	3		35	0
-13	-11	-9	-20	-15	-11	-4	-19	-20	-13	-10	-10	軽量形鋼C形		4	23	3		30	3
-20	-20	-12	-19	-10	-9	0	-9	-20	-5	-18	-14	軽量形鋼広巾		1	15	4		20	-15
-15	4	36	32	39	28	17	9	7	3	23	0	冷延薄板	1	9	15	3		28	29
-6	-3	21	22	16	17	0	3	-12	-9	11	14	熱延薄板	1	15	17	3		36	39
-7	26	62	42	58	56	30	16	-3	-6	35	31	表面処理鋼板	1	17	14	1	1	34	47
-18	33	100	89	85	57	52	32	9	14	45	31	酸洗鋼板	4	14	14	1		33	64
-9	3	30	38	23	14	0	-13	-11	-5	10	10	中板	2	17	20	2		41	46
-6	-5	18	16	10	-3	-6	-8	-19	-19	-5	3	厚板	1	13	24	3		41	29
-7	-11	25	22	5	-6	-6	-19	-7	-18	0	5	極厚板		3	15			18	17
-8	-14	-11	-11	3	-7	0	-6	-11	-9	-6	3	縞板	1	6	27	1		35	20
-20	-15	-16	-18	-23	-6	-19	-16	-28	-14	-15	-3	中径角	1	2	30	4		37	0
-16	-15	-16	-8	-12	0	-9	-15	-23	-13	-16	5	ガス管黒		5	29	5		39	0
-17	-13	-11	-12	-9	3	-9	-11	-21	-18	-20	-3	構造用鋼管		4	32	3		39	3
-8	2	11	6	7	4	-1	-9	-14	-10	1	3	計	13	135	482	54	1	685	15

6. 首都圏物件中心に需要は堅調、引き続き価格転嫁に注力

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	当地域の丸棒需要は目に見えて減少。数量の多い出荷は終わった。高止まりした価格の在庫を持ったまま越冬となる。要注意。
	B	10月は今年度ピークの荷動きである。これから冬場を向かえ低調に推移すると思われる。但し、来年は相当のS造物件が重なり、北海道内の加工能力以上の仕事量があると言われている。一般形鋼の値上げも実行中だが、完全な転嫁まで至っていない。
東北	A	メーカー値上げと市況動向に相違があり、その調整に苦慮している。景況感も良く感じられず、一進一退である。
	B	荷動き、加工が漸く本格的に動き出した。値上げは、まだ浸透していない。
	C	土木工事（橋梁、トンネル）の入札前物件の見積りが多くなってきた。
	D	民間物件が増えてきている。新規物件もあるが、鉄筋単価はメーカーが言うほど上らない。競争激化か。
新潟	A	昨年より冬の到来が早い。気候も景気も良くない。首都圏では物件が多く出ているが地方になるにつれて少ない。首都圏の仕事が少し回ってくる状況である。地方物件は出ても小ロット短納期である。
	B	10月以降、一部のユーザーに動きが見られ、荷動きもまあまあである。価格転嫁は仕入の値上げまでには届かず、転嫁は一部に留まる。受注面と併せて今後も引き続き価格転嫁のお願いをしていきたい。
	C	新規案件、見積りも少なくないが、価格転嫁を徹底してやっていく。
	D	季節商品の暖房機はピークである。ファブは関東案件中心に豊富な受注残を残している。産機は勢いを感じられない。
	E	ようやく荷動きが出てきた。メーカーの値上げもあり、利益は出るようになってきた。この状況が長く続くことを期待したい。
	F	車、建機、地場産品ともに好調。構造用鋼の再値上げは高値玉が未入荷のため来月以降になりそう。
	G	入荷の度に値が上り、価格転嫁しているが、どこまで続くのか。先の心配かもしれないが、上ったものはいつか下る。見積りが難しい。
川口	大きな揺り戻しもなく、近年ではいい水準で推移している。年初の鋼材値上げから、ようやく需要が追いついてきた。	
神奈川	一部の業種において全くメーカー値上げの転嫁が進んでおらず苦戦している。需要動向は濃淡があるものの好調な客先も見受けられる	
東京	A	資源価格の上昇により、建機、産機分野のヒモ付きの需要家は好調を維持している。一方で一般流通の店売りは盛上りに欠ける。
	B	(鋼管) 土木関連、自動車関連は堅調さに加え、建産機関連が好調である。価格転嫁は8割方、浸透しているが、さらなるメーカーの追加値上げは困難である。
	C	需要面ではどの業種も堅調である。建築も漸く動きが出てきている。見積案件も増え、オリンピック関連施設も動き出している。特に基礎工事は忙しい。人手不足は深刻で欠員が出ると新卒、中途とも採用が難しく補充が出来ない。

東京	D	厚板母材のタイト化が進んでいる。特にコイル材。
	E	表面処理鋼板は高炉メーカーの強硬な値上げ分が再販価格に追いつかず逆ザヤの状態になっている。需給は更にタイトになると思われる。在庫を大切にしながら値上げするしかない。
	F	11月の値上げ前の駆け込み需要があり、売上数量、金額ともに増加した。メーカー値上げの転嫁を引き続き実行していく。
	G	需要は民間、建設向、その他需要家向が堅調だが、メーカーが価格や供給に対し更に強気になった。転嫁を急がないと利益なき繁忙になる。
	H	10月の新車販売台数は前年比微減と12ヶ月ぶりに前年実績を割ったが、いずれ、日野ともに高位安定しており、荷動きに低調感はない。
静岡	A	11月に入って若干受注が減少してきた。建築案件は山谷の谷の時期になっている。なかなか需要が持続しない。
	B	薄板は11月に入り、市中在庫のタイト化が進んだ。これにより、価格転嫁がもう一段階進むと思われる。建築、設備ともに稼働率が高い状況が継続されている。土木の公共工事は順調。民間工事は少し小康状態。材料価格は高騰してきた。
	C	鉄骨ファブは大、中、小ともに仕事量が増加し、供給元の流通各社は受注、納期の対応に超多忙な状況。弊社は鉄骨ファブへメイン部材の供給が少ないため一般鉄工業者との景気温度差を客観的に感じる。鉄骨ファブも直請物件より大手下請の加工単価の方が良い。東西大手流通筋の受注、デリバリーがまた始まった。安易に手持ちストックを売りさばかないでほしい。当用買いを進めておいて、それはないだろう。全く同じことの繰り返しで3年後はどうなるのか。直需指向の地元大手流通各社の対応は軸ぶれなし。建設、金属関連先の不良債権発生事件は各地減少したと言ってもゼロではない。
石川	A	鋼板全般に対し、メーカーの引き受けカットや納期遅れ、値上げ要請などで日々、品揃え、価格交渉に苦労している。
	B	鉄骨加工業者は来年度の山積みが高い。H形鋼はタイトな状況にもかかわらず、売り焦っている会社がある。品種ごとの仕入状況に応じた価格設定をしないと適正利益が取れない。運搬に関わる状況が日を追って悪くなっている。業界全体が認識し、ドライバー離れを食い止めなければならない。
富山	A	当地区では民間建設物件の出件数の減少が続いている。特にRC物件が少ないように感じる。繁忙な都市部との格差が広がっている。
	B	ユーザーからの値上げは認めるも時期と値上げ幅は道半ばで進んでいない。さらに仕入れの再値上げで利益が圧縮されているところに品質保証問題でいらぬ経費負担増になっている。不満が募る一方。
福井		県外からの仕事、さらに県内物件も出ており、鉄骨ファブは大変忙しい。新幹線関連工事も少しずつ出てきている。今後はさらに忙しくなるのではないかと。単価値上げも後追いながら徐々に上げてきている。
岐阜	A	最近、忙しいと思って業務をこなしているとユーザーから「仕事をくれ」との電話。業種で分けると産業機械がやや悪い。鋼種でみるとプレートに多忙感があり、売上構成だと物件が多く、小口店売りは増えていない。一時的に建屋内や自動車ライン設備関連の仕事が出ているだけである。
	B	産業機械関連も需要がやや上向き、微増傾向が見られる。ただ、建築関連を中心に需要は上向いてきており、下半期に期待が持てる。運送経費は需要の短納期から増加している。

愛知	A	動きは出てきたが短納期物件が多い。仕入価格の上げに対して販売価格の転嫁がまだ遅れている。メーカーが流通の店売り分野5割カットの影響か。鋼板類が不足ぎみである。
愛知	B	全体感としてプロパー、集購ともに良かった。集購は応援分が終わったので、今後は前年比が伸びない。プロパー全体は良かったが、唯一主力の家具は前年同月比マイナス。10月は決算月だが、家具は通年良くなかった。決算の数字は当初の見込みよりも良かった。転嫁が上手くいったことと採算重視の商売に徹した効果である。但し、11月以降、メーカーから値上げのアナウンスがあり、頭が痛い。集購は自動車のマフラー向けのウェイトが圧倒的に多く、情報収集に注力している。先の勉強会での感触では、まだまだ時間がかかる部分もあるようだが安心はできないとのことだった。今後の課題は加工賃の是正である。
	C	秋需は悪くないが、盛り上がりもうひとつというところか。市況も弱くないが、上げる勢いは少ない。年末までは、この状況が続くか。自動車の動きがもう一つと言うことが膠着状態を招いているようだ。
	D	自動車部品メーカーは好調で、設備、架台が出ている。製缶も見積りから決定へと増えている。建築は中小案件が順調に出ており、年内一杯はその状況が続く。RCは相変わらず低調である。
	E	メーカーから一次問屋の値上げは進行しているが、ユーザーまでには浸透していない。更に神奈川から某鋼材店など安売りしているところもある。中板で通常価格では通らず不当廉売が横行している。
大阪	A	相続税対策のアパート建築は一巡した感じだが、鉄骨造の小規模賃貸アパートはそこそこの物件が出ている。小口物件、小口加工は多く繁忙感があるが、なかなか売上利益に結びついていかない。
	B	需要は11月に入ってから堅調に推移している。加工も忙しい。スクラップが強含み、メーカーの値上げを受け、今後の販売単価も強含みに推移する。
香川		土木需要は底堅く、年内はそこそこ動く。建築は10月に少し動きがあったので11月はその反動からか動きは鈍いようだ。値上げは道半ばといった感じである。今後も市場に値上げを浸透させていきたい。
岡山		三菱自動車関連で少々モデルチェンジの需要あり。
北九州	A	10月、11月と引合いが多く、相場も上昇。加工も忙しく、納期対応に苦労している。メーカーの入荷は悪く、海上輸送は激減し、年末年始にかけ品薄感は強くなりそう。建築は地元物件の割合が相当高くなっており、他地区の物件は敬遠気味である。
	B	業種を問わず、荷動きは好調と思われる。H形鋼はかなり歯抜けが出ており、メーカーからの入荷も遅れている状況。メーカー値上げ分の価格転嫁を浸透させていく。運転手不足が深刻なため運賃経費を確保していくことが急務である。スクラップは戻しており、市況は年内強含みと思われる。
	C	見積りや受注は増えてきているが、受注単価を急いで上げていかなければ採算が取れない。
福岡	A	10月度も見積り、引合いが増えてきているが、材料（SS、SUS）の値上げに対する価格転嫁が難しい状況である。市場のコスト要求がかなり高く、今後の収益にどのような影響が出るか心配である。また、東鉄の材料が入りにくい状況となっている。

福岡	B	関東案件、九州案件ともリストが出始めている。切板は繁忙である。薄板は入荷遅れ、メーカーの枠カットにより、サイズによっては歯抜けが出ている。
----	---	---